

[成果情報名] 生薬「芍薬」生産を目的としたシャクヤク薬用・切り花兼用品種の選定

[要約] 鈴鹿地域の黒ボク土壌条件下における薬用シャクヤク栽培での使用品種は、生薬 Paeoniflorin (ペオニフロリン) 含有率、地下部重量増加比の高い「プレジデントウィルソン」、「滝の粧」、「ラテンドール」、「夕映」、「ファーストレディ」が有望である。

[キーワード] 生薬、シャクヤク、黒ボク土壌、Paeoniflorin、切り花

[担当] 三重県農業研究所 茶業・花植木研究室 花植木研究課

[分類] 普及

[背景・ねらい]

高齢化社会の進展に伴い、需要量の増大が予想される漢方薬原料生薬について、安定確保に向けた国内生産体制の構築が求められている。

そこで、県北勢地域黒ボク地帯でのシャクヤク生薬栽培を想定し、入手が容易で切り花利用が可能な兼用品種を選定し、生産拡大を目指す。

[成果の内容・特徴]

1. 露地栽培 4 年生株の品種別薬用成分ペオニフロリン含有率は、すべての品種において日本薬局方に定められている基準値 (ペオニフロリン含有率: 2.0%) を超えた (図 1)。
2. 薬用栽培期間 (4 年) における地下部重量増加比は、「プレジデントウィルソン」、「春の粧」、「夕映え」、「ラテンドール」、「滝の粧」で 40 倍以上となった (図 1)。
3. 選抜品種の遺伝子配列は基原植物種 (*Paeonia lactiflora*) と同一である。
4. 生薬成分含有率と地下部重量増加比を乗じた値が薬用専用品種「北宰相」より大きい「プレジデントウィルソン」、「滝の粧」、「ラテンドール」、「夕映」、「ファーストレディ」の 5 品種を有望品種として選定した。(図 2)

[成果の活用面・留意点]

1. 有望品種は、「卯月の雪」、「春の粧」、「華燭の典」(H27 成果情報) に加え、8 品種となる。
2. 栽培に当たっては、本研究成果を活用して作成した「薬用シャクヤク栽培マニュアル」を参照されたい。
3. 選定品種の種同定は、ITS 領域の塩基配列が *Paeonia lactiflora* の配列情報と一致することにより、日本薬局方に規定される基原植物種であることを確認した (H30 日本薬学会 鈴鹿医療科学大学)。
4. 生薬に利用される品種は、契約先によって違うため、販売先と協議の上栽培すること。

[具体的データ]

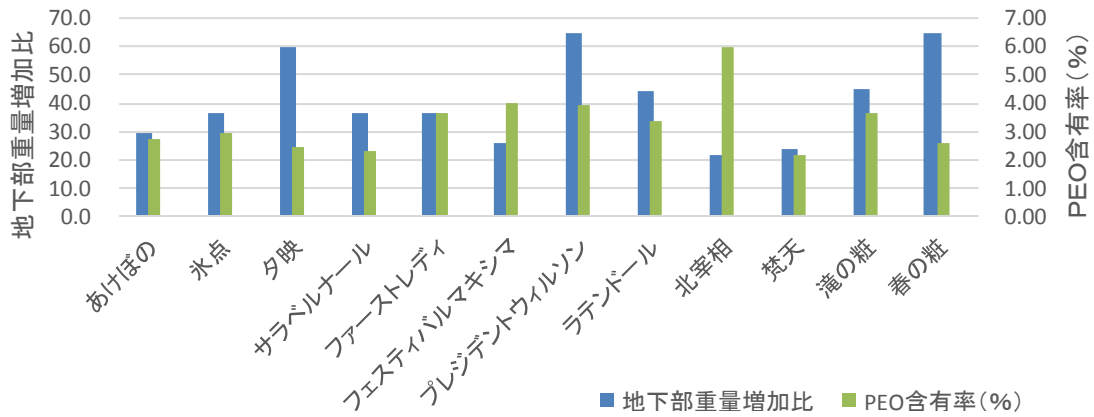


図 1. 露地栽培 4 年目の品種別地下部重量増加比及び PEO 含有率

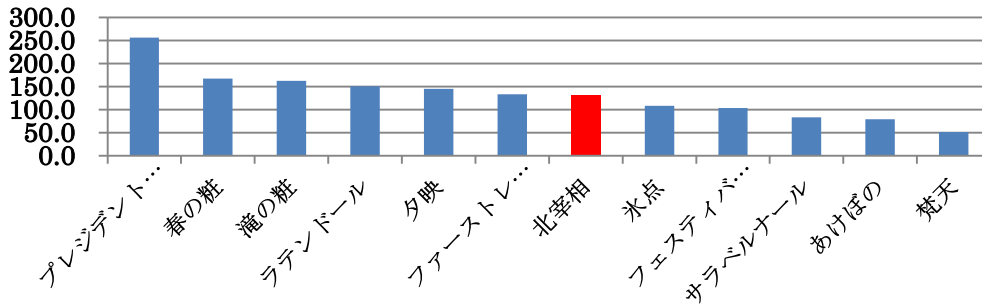


図 2. 品種別地下部重量増加比と PEO 含有率の積



プリジデントウィルソン



滝の粧



ラテンドール



夕映



ファーストレディ

(小林泰子)

[その他]

研究課題名：委託プロジェクト「薬用作物の国内生産に向けた技術の開発」

予算区分：2016 国補（委託プロジェクト）

研究期間：2016～2020 年度

研究担当者：小林泰子、内山達也